

# ひめゆり 通信

第161号

2020年10月20日号

<https://hozanji-wel.org/>

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257 奈良県生駒市元町2-14-8 桃李館内 TEL:0743-74-1172 / FAX:0743-74-1911

## —主な目次—

- 卷頭言 ..... 1
- 光明を放つものとは ..... 2
- 梅寿荘デイセンター30周年のあゆみ ..... 4
- 高齢者施設より ..... 6
- 児童施設より ..... 10
- 施設長就任挨拶 ..... 16
- 叙勲 ..... 17
- 新採用職員オンライン研修 ..... 18
- 令和3年度 新規採用正規職員募集 ..... 19
- 法人役員会等報告・研究発表会のお知らせ ..... 20

## 称徳天皇御遠忌法要に列して

総本山西大寺執事長 辻村 泰範

真言律宗総本山西大寺で毎年恒例の光明

眞言大法会が行われた。今年はその中日十

月四日に奈良時代にこの寺を創建された称

徳天皇の千一百五十年御遠忌法要が執行さ

れた。称徳天皇は、父聖武天皇と母光明皇后

の娘であられるが父君、母君の偉大な名前

に隠れがちでおられるようだ。

聖武天皇から皇位を譲られ孝謙天皇とし

て即位されたのが西暦七四九年、東大寺の大仏が建立された年です。七五二年に大仏

の開眼供養が行わされたのですから、その期待がいかに大きかったかが窺えます。

女帝として活躍されたこの時代は、奈良時代の歴史の中でも怒濤の展開をみせた時期でもありました。仏教の根幹をなす僧侶の戒律を授ける戒師として鑑真和尚が来日し、藤原仲麻呂に命じて国家の基本法制度である律令を完成させたのもこの時期です。自ら仏法に深く帰依していた天皇は、僧道鏡法師を信任して治世に当たられ、一度は退位して淳仁天皇に皇位を譲られ、光明皇后の没後出家して尼となられました。しかし治世おさまらず仲麻呂の謀反などがあって、尼であるにもかかわらず再び自ら

即位して称徳天皇となられたのです。

動乱の時代に鎮護国家の勅願をたてられて創建されたのが西大寺です。聖武天皇や光明皇后が深く仏法に帰依して東大寺や法

華寺を建てられたように、称徳天皇も人々の平和な暮らしを願つて西の大寺を建立されました。

とくに男性優位の思想の中で女性天皇の本当の活躍が歴史の上でも過小評価されているのではないかと改めて思ったところであります。加えて本願天皇の御遠忌法要に列する勝縁をしみじみと感じました。



称徳天皇御影（西大寺蔵版）

# 光明を放つものとは

宝山寺福祉事業団理事長 辻村 泰範

秋の彼岸法要が済むと、これも毎年恒例の西大寺の光明真言会がやってくる。今年はコロナの影響で若干縮小しての開催となつたが七〇〇年以上も連續として続けられている。

法人の理事でもあつた故青山茂先生（元帝塚山短期大学名誉教授・奈良学研究家）は、子どもの頃は「こめしご、こめしご」と呼んでそのお祭りにゆくのが楽しみであつたと書いておられる。光明真言会のことである。「こみょうしんごん」が訛つて「こめしご」になつてゐたのであるが、子供だけなく大人も皆、「こめしご」と言つていたとのこと。西大寺の古老の言い伝えでは、屋台はもちろん芝居小屋のようなものまで掛かって大層な賑わいであつたらしい。集まつてくる人の多くは本堂の前で手を合わせることもそここに、後はもっぱら屋台などの祭りの雰囲気を楽しんでいたことだろう。

十月三日から五日の間、西大寺一門の僧侶が交代で出仕し不斷の祈りを捧

げる法要が続く。決して華やかな法要ではないので、観光の対象というわけ

ではないが信仰心の厚い人々は今も変わらず多くの人が本堂の中に入つて僧侶とともに手を合わせている。日が落ちて七時からの初夜の総番と呼ばれる法要では、全国の末寺から僧侶が出仕し、一斉に光明真言が低い音階で唱えられる。「オーン、ナー、ボー、……」

一つの音を数十秒も長く引きながら、唱えられる光明真言の声明が広い本堂の中に静かに響き渡るだけのことではあるが、秋の夜長を厳かに奏てる伝統法要である。今では屋台が出るということもないので、足元を照らす灯明だけの境内は静まり返つて、かえつて厳肅な雰囲気を醸していると言えなくもない。

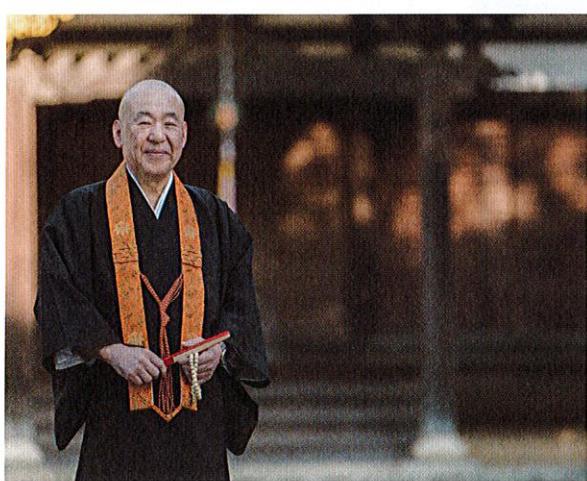
八月にこの真言律宗総本山西大寺の宗務長兼執事長に任命されたので、光明真言会をかつての様に賑やかに、多くの参詣者にお集まり頂けるようにす

あるのだが、それにもまして私の頭から離れないのはこの光明真言会を始めた宗祖である興正菩薩や忍性菩薩の業績のことである。その一門の人々、僧侶だけでなく周りでお世話をし、一緒に活動した人々の福祉活動のことである。

福社を学んだ人や鎌倉時代の仏教に関心のある人たちは、日本の社会福祉の先駆者としての興正菩薩教尊やその弟子忍性菩薩の名前に接しているはずだ。だが彼らがこの西大寺を拠点として全国に活動を展開し、南都の多くの由緒ある寺々を復興したことなど、その活動の全体像はあまり知られていないようを感じる。貧しい人、虐げられ

いる人を助けようとするなら、ただ祈りだけでは救えない」と福祉事業に関する行政組織のバックアップや協力を得ることができたのであろうか。

先代（父泰圓）は、「道端で倒れて



しらは福社屋ではない、僧侶だ」と。かつて福社と宗教、とりわけ仏教と福社を論じる時には、どうしても別個の概念として語らねばならないと思ひ込んでいた時期があつた。その頃は仏教福祉という言葉に馴染めなかつた。お前が受けた教育の弊害だと指摘する方もあるかもしれない。それでももう少し教福社という言葉に馴染めなかつた。政教分離という言葉が一人歩きしてきた。

多くの人が佛教徒であった時代、飛鳥時代からこれまで佛教思想の実践が福祉であり福祉行政であつたと、今改めて思い直している。そこには佛教と福祉の区別など更々なかつたのである。日本に初めて重症心身障害児施設を設立した故糸賀一雄博士はクリスチヤンである。彼は「この子らを世の光

に」という有名な言葉を残しておられる。実は、それは光明皇后が願をかけた最後の病人の瞼を拭った時に病人は大光明を放って虚空に消え去ったという説話や、叡尊、忍性両菩薩の悟りへと導く文殊菩薩が現世に貧窮孤独の相をなして現れるという文殊信仰とも全く同じ趣意だと改めて気づかされるのである。



興正菩薩像（国宝）

暗闇に光明が放たれて世界が転換されると、光明が放たれる光明真言を唱えながら、混迷の時代に放たれる光明を、いや小さな暗がりに沈んでいる人々に差し込む一筋の明かりをと念じながら、仏教徒としてなすべきことは既に定まっていることに肯くのである。



西大寺本堂

# 30周年のあゆみ

合成語に由来している。当初は菜畑の店舗兼住宅を借り上げ、一階は事務所に改造。深夜、早朝の派遣に対応するためヘルパーは交代で2階に寝泊まりしてその業務をこなしていた。

介護保険制度がスタートする前はどのような福祉サービスが適切なのか市が決定する仕組みであったが、生駒市では全国的に見ても先駆的であった利用券方式を採用し、在宅介護支援センターが市の委託を受けて利用者に応じてサービスの利用調整を行なっていたのである。

梅寿荘デイセンターがスタートした初期の頃は、ストレッチャーを利用して送迎する利用者が結構おられ、今ではほとんど使われていないが特別浴槽や安静用のベッドも用意して態勢を整えていたのが今とは大きな違いだ。欧米諸国のシャワーを主とする生活スタイルと異なり日本人は何と言っても浴槽にどっぷり浸かりたいという人が多い。寝たきりになり送迎も困難な人のために移動式の浴槽を家に持ち込もうという発想が訪問入浴であった。

1996年（平成8年）には小型ボイラーとお湯を送るパイプ、搬送式浴槽を備えた訪問入浴車輛「ゆのはな」号が登場した。ヘルパーと看護師がペアになり座敷に持ち込んだ浴槽に浸かってもらって入浴サービスがスタートした。

この頃、生駒市老人憩の家があまり利用されていないので法人でなんとか活用してもらえないかという話が持ち込まれてきた。

1996年（平成8年）そこで梅寿荘デイセンターとリンクした認知症対応型のデイセンターに改修してはどうかということで誕生したのが現在の「デイセンター憩の家」である。梅寿荘デイセンターと生駒駅との中間的な位置に所在する憩の家は、少し離れてはいるが静かな環境でゆったりとした対応が取れることでその特色を出している。また近年は地域支援室を設け地域のサロン活動などにも活用されている。

1999年（平成11年）には、生駒市の在宅福祉サービス強化の政策を受け生駒市南公民館を改築した生駒市

デイサービスセンター寿楽の指定管理を引き受けることになった。

2000年（平成12年）には介護保険制度がスタートした。介護保険制度施行に伴い、在宅介護支援センターの業務はケアプランの作成を担当する居宅介護支援センターに衣替えし、更には

2006年（平成18年）には新たな仕組みとしての梅寿荘地域包括支援センター業務を受託することになって法人の在宅福祉サービスはますます多様で総合的な展開が図られることになったのである。

振り返ってみれば、梅寿荘デイセンターが法人の高齢者在宅福祉サービスの展開に果たしてきた役割は大きなものがあった。

現在では、法人本部の所在する桃李館（梅寿荘デイセンター、居宅介護支援センター）を中心に、梅寿荘（特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、短期入所、ヘルパーステーションサテライト）、やすらぎの杜延寿（特別養護老人ホーム、短期入所、ケアハウス、デイセンター、はあとぼーと延寿、訪問入浴、居宅介護支援センター）、デイセンター寿楽、デイセンター憩の家、総合支援センターあずさ（梅寿荘包括支援センター、はあとぼーと梅寿荘）などが大きなネットワークを形成して生駒市の在宅福祉サービスを担っているのである。



# 梅寿荘デイセンター

## 梅寿荘デイセンターの歴史と在宅福祉サービス

理事長 辻村泰範

梅寿荘デイセンターが30周年を迎えた。

1990年（平成2年）6月、数年来の懸案であった建築工事が完成し、新しい建物は「桃李館」と名付けられた。梅寿荘デイセンターが入る建物である。

子供たちが暮らしていた愛染寮の若鷹荘、小鳩荘が老朽化し建替を迫られていたこと、法人本部と称してはいたがプレハブの小さな小屋では法人業務の限界に達していたこと、当時梅寿荘で実施していたミニデイサービスも本格的な老人デイサービス事業として実施して欲しいという当局の強い要望もあったこと等がきっかけとなって新しい建物の建築計画が具体化したのであった。

法人の高齢者福祉事業は1972年（昭和47年）創設の特別養護老人ホーム梅寿荘に遡るが、実は法人の機関紙「ひめゆり通信」創刊号1953年（昭和28年11月）の記事からは既に養老事業等の計画について議論されていたことがわかる。

1972年（昭和47年）梅寿荘が創設されて以来、法人は積極的に在宅福祉サービスにも取り組んできた。当時最新の設備が備えられた梅寿荘の関係者は、寝たままの姿勢で安心して入浴できる昇降浴槽を在宅で長い間お風呂に入っておられないお年寄りにも利用してもらおうと企てた。今では考えられないことだが、何年もお風呂に入っていないというお年寄りは決して珍しくはなかったのである。

1975年（昭和50年）こうした試験的な取り組みは在宅老人機能回復訓練事業の一環として国庫補助事業の対象として取り上げられ実質的な入浴サービス事業が開始された。

1978年（昭和53年）には読売テレビ二十四時間テレビ「愛は地球を救う」チャリティ委員会からこの事業が認められ車椅子のまま乗車できるチアキャブ地球号が市内を走り回り始めたのである。

1980年（昭和55年）には入浴サービスは国庫補助事業から生駒市の補助事業へ肩代わりされることとなった。こうした活動の中で、ご利用者には入浴だけでなく昼食を取っていただきたり、レクリエーションと一緒に楽しんでいただいたりするようになり、

1988年（昭和63年）にはミニデイサービス事業として在宅サービス事業の一つとして位置付けられるようになった。国や県も在宅福祉サービスの強化へと政策の重点を切り替え始めようとした時期であった。こうした時代背景と法人が抱えていた課題や社会的ニーズへの対応を踏まえて桃李館という複合的な建物が完成したのである。

この建物の名前は、公募によって愛染寮の山下登士生指導員が応募したものだ。美しい花やかぐわしい香りがする桃や李には、誰が誘うともなく人が寄り集まつくるので、その下にはいつの間にか小径が出来上がる、という意味の中国の諺「桃李もの言わざれども下自ずから蹊をなす」に由来するのだが、かつて昭和20年代の後半にはこの斜面には実際に桃やリンゴが栽培されていた時期があったのである。

1990年（平成2年）本格的な老人デイサービスセンターがスタート。初代辻本泰範の後、滝元弘武氏、井上太氏、山下安久氏、田中聰氏、森本公子氏、松岡利和氏がセンター長を継いできた。

梅寿荘デイセンターは、その設立によって法人の高齢者在宅福祉サービスの拠点としての役割と機能を発揮することになったのである。

1991年（平成3年）には、在宅介護支援センターの事業を開始、更にはホームヘルパー2級課程の養成講座をスタートさせた。初期の養成講座は受講者が殺到し、抽選で受講者を選ばなければならなかつたが、この養成講座修了者が法人のホームヘルパー派遣事業の中核になり今では介護施設の幹部になっている人も多い。こうした態勢を整えながらヘルパーステーション「はあとぼーと梅寿荘」がスタートした。

「はあとぼーと」は、ヘルパーが運び届ける暖かい心を表すハートと船の寄港地である港を表すポートの

## やすらぎの杜延寿

### 宝延祭を終えて

夏祭り実行委員長 田中 真輝

職員の協力のもと、今年も宝延祭を無事に終える事ができました。

延寿の夏祭りといえば、皆が外に出て、盆踊りや神輿、花火を見て屋台のご飯を楽しむ、そんな雰囲気で今まで行つきましたが、今年はコロナ禍の中で例年通り盛大にとはいきませんでした。しかし小規模で実施した事により、温かい雰囲気で開催させて頂くことができました。

特養、デイセンター、ショートステイはそれぞれ別の場所で行うことになり、庭園で盆踊りやカラオケ大会をしたり、手作りの屋台を作ったりと、いつ



ショートステイ夏祭り



特養の屋台



特養の盆踊り



利用者様も浴衣を着ました

## はあとぽーと梅寿荘

### こんな時だからこそ

副主任 奥垣 洋子

毎年、暑いこの時期は、熱中症にならないために、あれこれ色々と対策をして活動しています。今年は平年よりも気温が高く暑い夏になり、ただでさえ熱中症のリスクが高まっていた中、コロナ感染予防で、マスクを着用して訪問活動をするという、これまでに経験したことがない夏を迎え活動してきました。普段から“清潔にいること”的大切さをモットーに衛生面には、ことさら気をつけていますし、感染症についても、研修を受けたりしているので、新型コロナという未知の感染症に対する恐怖感は、ヘルパーの皆さんも、人一倍あったかと思います。「ウイルスを持ち込まない、やり取りしない、持ち出さない」

## 高齢者施設より

もとは違ったアットホームな雰囲気で行うことができました。そのような雰囲気で皆さんとの距離を近くに感じられ、たくさんの笑顔に触れることができました。夏祭りを行う事によって、皆さんのが少しでも夏を感じていただけたなら幸いです。

今回、実行委員長をさせていただき本当に多くの事を学ばせていただきました。また、多くの方々に支えられこれまでやってこれた事を大変感謝申し上げます。来年も宝延祭を盛り上げられるよう尽力して参りますのでどうぞよろしくお願ひ致します。



特養の盆踊り



利用者様も浴衣を着ました

感染拡大を招くことがないよう、自分自身の行動に気をつけ活動しています。その他に行動の履歴を記録しており、行動記録を記入するのは、面倒だなと思っていましたが、一日の出来事を振り返りながら、書いていると、懐かしい日記のような感じで、楽しくなってきたような…?!。

また月1回の研修は、全員で集まることができないので、課題を出してレポートを提出するということで行ってきました。少しずつ緩和されはじめてからは、動画を見てレポート提出、少人数での外部研修やリモート研修の参加などを行っています。



研修風景

## 梅寿荘

### 新型コロナウイルス クラスター発生施設への 応援派遣を経験して

介護フロア主任 堀本 卓史

この度、奈良県からの応援要請にこたえる形で、新型コロナウイルスの集団感染が発生した、県内にある特別養護老人ホームへ約2週間の応援派遣を経験してきました。梅寿荘も職員体制がギリギリの状況の中、森本次長の「決して他人事ではない！本当に困っておられる同業者への支援、ご高齢者への支援を何とか実現したい!!」との熱い思いを受け、法人や奈良県、梅寿荘職員皆様のバックアップの中、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

緊張の中、9月2日に初日の業務に臨み、フェイスシールドとN95マスク、ガウンに2重のプラスチック手袋を着用し、介護現場へと赴きました。着用するだけでも息苦しく、汗が滲んでいます。現場に赴くと、そこには非日常の光景が広がっていました。入浴や着替えすらままならず、不自由を強いられるご利用者と、感染予防フル装備の職員達…。「人がいなくて一番大変な時は、ご利用者の命をつなぐだけで精いっぱいでした…」「自分たちも疲れてしまって、それで感染リスクが高まって感染してしまった職員もいたと思います…」「ターミナルを迎えておられるご利用者に対して、特に申し訳がない気持ちで

…」と語られた職員さんの言葉が、心に刺さりました。そんな状況の中でも、「(フル装備で大汗をかく状況で) デトックス効果でしっかり汗が出て、身体にいいかも！」などと言い合って、職員同士で励ましあったとおっしゃっていたことが印象的でした。滲み出る職場風土に対して、敬意を感じずにはいられませんでした。

応援職員6名、シフトを工夫して平均4人で協力し、主に消毒作業やゴミ出し、トイレ掃除などの環境整備、リネン交換などを実行しました。現場の担当職員さんも、フル装備での激務続きで疲弊されている中、応援要員に適切な指示を出すだけでも大変なことなのに、いろいろなことを伝えてください、感謝でした。職員の方々に、過度な疲れが出ないことを祈るばかりです。派遣期間中は関係者のご尽力により、陽性者が増えることはなく、派遣終了日の翌日からは、通常営業再開に向けて県の許可が下りたとの嬉しい知らせも届きました。自身も期間中体調を護られ、派遣翌日にPCR検査を受け、無事陰性となり、ホッとしています。私たちの職場にも、いつウイルスが入ってきてても不思議ではありません。正しい知識を仕入れ、知識に基づいて知恵を絞り、共に備えていきたいと思います。

～新型コロナウイルス感染を

最小限に収めるために必要と思われる備え～

- ①基本的な感染予防策の徹底
- ②ウイルスを持ち込まない予防策の徹底
- ③感染を広げない工夫をする。
- ④職員の濃厚接触者を一気に出さない工夫をする。
- ⑤他部署や他事業所からの応援職員が働きやすい環境を整える。

## 梅寿荘居宅介護支援センター

### 有効活用しています

センター長 斎藤 洋子

居宅事業所では、コロナ禍の中でも利用者さんの生活支援が途切れないように努めています。ケアマネージャーの業務に福祉用具の調整も大きな役割としてあります。

自立支援の観点から、起き上がりや立ち上がりを自力で行えるようにベッドや手すりの設置の検討をし、また歩行を安全に行うために杖や歩行器などの利用を福祉用具専門相談員と検討しています。日常

生活中で一番多く行う動作は排泄動作ですが、健康な時は何も気にならないトイレまでの移動が、高齢になると筋力低下や病状により難しくなります。1回でも移動回数を減らすために水分摂取量を減らす方も少なくありません。その為、少しでも自力で安楽に排泄が出来るようにポータブルトイレ購入を選択することもあります。しかし、折角福祉用具購入費でポータブルトイレを買っても、病状の悪化や、認知症の進行で使い方が分からず短期間で使えなくなることもあります。

事業所では、利用者の方から使用しなくなったポータブルトイレを譲り受けで6台保有しています。購入を検討される方の中で、一時的な体調不良の方、上手く使用できるか不安な方に一時的な貸し出しを提案しています。お試し利用して使用が定着出来たら、購入の手配をしています。頂いた物の有効活用と介護保険費の削減になればと提案しています。

## デイセンター憩の家

### コロナ禍でも気持ちは平常心で…

生活相談員 友國 和之

初期のころの新型コロナウイルスの情報は遠い国から遠い昔に起きたことの様でした。それがいつの間にか国内でも注意喚起があり、生駒市で開催されたケアリンピックのときもマスクの着用呼びかけがあったのも、随分昔のように思われてしまいます。地域サロンのボランティアに参加させていただいたのも、入室するのに検温が必要になり、その次の月からは、中止がよびかけられていた事に、サロンをよりどころにされていた参加者の方のお過ごしや、スタッフの方が今後の方針などに模索されていたことを思い返しています。

デイセンター憩の家では、出勤前の検温・マスクの着用・手指、その他の消毒、換気等の感染症対策を行っています。しかしこ利用者の中には、私たちがマスクをしていると、表情が見えず、誰かわからなかつたりと嫌がる方もおられます。新規のご利用

さんの受け入れ時も、しっかりと笑顔と表情を見ていただいてからマスクを着用します。活動の中でも、気候の良い時には、憩の家周辺の外に出て食事をすることもあり、通りがかりの方も「この時期だから自然の中で食事も良いですね」と言ってくださいました。

新型コロナウイルスの感染症対策は今後のインフルエンザにも効果があると、聞いております。この自然の中で、ご利用者が伸び伸びといつまでもお元気で、介護者の方々におかれましても、健康で過ごされていることを願うばかりです。



憩の家の外で食事

## 梅寿荘デイセンター

### 安心、満足いただける

### デイサービスセンターを目指して

介護職員 西野 まゆみ

梅寿荘デイセンターは今年で創設30周年を迎えました。私は入社して10年目に入りました。この歴史ある施設で働く事に喜びを感じております。30年もの間には色々な出来事があったと思いますが、今年は今までと大きく違うのはコロナ禍にあるということです。

大切なご家族をデイサービスに送り出すにあたり、とても心配されていることだと思います。当施設ではクラスターの発生を防止するために、日頃から以下の対策を行っています。

- ・職員の検温、マスク着用、手洗い、手指消毒、送迎車消毒
- ・ご利用者に来所前にご自宅で検温をして頂く

- ・フロア内や送迎車内では、二方向以上の窓を開け換気をする
- ・一日数回、机、手すり、運動機器、トイレ等の消毒
- ・体操時、お隣との間隔を出来るだけ空ける
- ・カラオケ等の歌唱、大声での発声を中止

以上の取り組みの他、例年開催している夏祭りや敬老会については職員で話し合った結果、中止するのではなく内容を検討し実施する事に決まりました。

「夏祭り」については、たこ焼き、綿菓子等飲食は控え、射的やヨーヨー釣りなどを楽しんで頂きました。ただ、祭りの最後のメインイベントのスイカ割りまで中止するとなると盛り上がりに欠けるのでは…という意見があり、担当の職員の案で新聞紙にスイカ風の布を貼った物を新聞紙で作った棒で叩いて「アタリー」とする事になりました。困難な時に生まれてくる発想や工夫がよい一層生活を豊かにする事もあるのだと思きました。

これからも安心、満足いただけるサービスを提供出来るよう、職員一同力を合わせて参ります。今後とも梅寿荘デイセンターをどうぞ宜しくお願ひいたします。

## あぐなみ苑

### コロナ禍の中での夏祭り

夏祭り実行委員長 岡本 航

今年度の夏祭りは新型コロナウイルスの影響もあり、開催自体をどうするかも検討されました。夏祭りはあぐなみ苑の一大イベント、楽しみにされているご利用者、ご家族も多くおられる為、中止は避けたいとの思いで、職員一同話し合いを重ねていきました。

しかし夏祭り開催日に近づくにつれ、コロナウイルス感染が広がり、まさに第二波の真っただ中、安全に開催するにはどうすればよいのかを皆で話し合いました。そこでフェイスガードの着用、密を避けるために規模を縮小するなど十分に対策を取ったうえで開催する事に決定しました。

しかしながら当日は、生憎の雨で準備は度々手を止めざるを得ない状況でした。昼過ぎになり、一時的に雨はあがりましたが、夕方にも雨が降るとの予報、そして雨雲レーダーを確認すると集中豪雨を思わせるような様子でした。苦渋の決断でしたが、開始の直前に夏祭りの中止を決定しました。

夏祭り自体は中止になりましたが、屋台で召し上

がって頂く予定だった食事を施設内で提供しました。そして、夏祭りの雰囲気を感じて頂けるよう音楽を流して、職員も一緒に食事を摂らせて頂きました。すると、ご利用者の皆様は笑顔で食事を楽しんでおられ、にぎやかな様子が見られました。

夜になると雨もあがりましたので、職員によるソーラン節を見て頂くと大きな拍手を頂けました。花火では職員と一緒に手持ち花火を行うと「きれー」「すごいねー」と口々に声が聞かれました。こんな時だからこそ、利用者の楽しみを無くす事なく、可能な範囲ででも開催する事が出来て良かったと感じております。



あぐなみ苑夏祭り



屋台風のお食事でお祭りの雰囲気を楽しみました。



レクリエーションも屋台風！



おやつは手作りのかき氷とミルク餅

### 夏の行事【初めての夏祭り】

介護職員 上平 昇兵

コロナウイルスが世界的な流行を続け、自粛モードが継続される中、デイセンター寿楽でも例外でなく、様々な行事ごとが延期や縮小傾向にあります。そんな折、開催する事となった夏祭りも、縮小を余儀なくされました。感染予防に重点を置いた、例年ない【初めての夏祭り】となりました。案を練る所から大変悩みましたが、当日ご利用下さった方々皆様が楽しんでおられるお姿を拝見したことで、我々の救いと励ましになりました。今後もコロナの影響を受け、同様なことが頻発する事と予測されますが、今回のように感染症対策と行事の両立を図りつつ、ご利用者に楽しんで頂けるよう様、職員一同で試行錯誤して参ります。



## 新たな取り組み～歩みを止めずに～

介護支援専門員 諫山 直子

コロナウイルスの感染拡大により休止していた介護予防教室やサロンも、少しずつ再開されています。総合支援センターあずさ交流ホールでも、地域の方々の協力を得ながら、のびのび体操や認知症カフェが再開されました。換気や消毒はもちろんの事、体操は密を防ぐために2部制にしたり、カフェでも飲食やカラオケは当面見合わせたりと、地域包括ケア推進課と相談し、感染予防に努めながらの開催です。参加人数はまだまだ元通りではありませんが、以前と変わらない元気な笑顔にホッとします。反対に、コロナによる閉じこもりで動けなくなってしまった…という相談も増えており、通所や訪問事業所の協

力を得ながら、何とか支援に繋げている状況です。

さて、9月は世界アルツハイマー月間です。残念ながら今年の認知症啓発イベントのラン伴はバーチャルでの開催となりましたが、地域包括支援センターでは、マスクに認知症サポーターキャラバンのロバ隊長のワッペンを付けて、オレンジのTシャツを着て業務にあたる等、認知症の啓発に取り組んでいます。10月からは「認知症にやさしいまちいこま」をテーマに市役所を中心に啓発イベントを開催する予定です。

ウィズコロナ社会での支援、まだまだ模索は続きますが、ロバ隊長のように一步一步確実に進んでいきたいと思います。

知ってますか？

**ロバ隊長**

◆ロバ隊長とは？  
「認知症サポーターキャラバン」のマスコット。  
※キャラバン（括弧）

◆あなたも認知症サポーターになりませんか？  
認知症サポーターとは特別なことをする人ではありません。  
認知症について正しく理解し、偏見を捨てた、認知症の人や家族に対して温かい目で見守る応援者です。

◆「認知症の人にやさしいまち」を目指して  
認知症は健忘が発症し得る重篤な病気です。  
生駒市は「ロバ隊長」のように「認知症の人にやさしいまち」実現に向けて、歩ずつ取り組んでいきます！

あなたも、「認知症の人にやさしいまち」へ一緒に歩んでいきませんか。

認知症  
サポーター  
養成講座  
随時受付中。

講座受講の証として  
オレンジリングがもらえます。

生駒市地域包括センター連絡課 TEL: 0743-74-1111 (内線468)

## 児童発達支援 いっぽ

### みんなで一緒に対策を

保育士 奥 克至

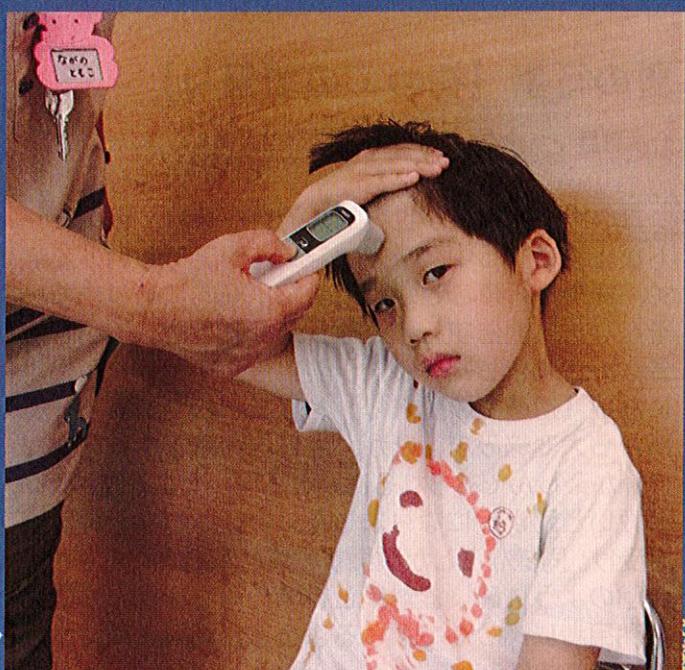
暑い夏も少しずつ終わりが見え始め、秋の涼しさを感じられるようになってきました。

新型コロナウイルスの感染対策の為に、いっぽでも様々な対応をとらせていただいています。子ども達も年度初めは新しい取り組みに戸惑う様子もありましたが、今では登園後の体温測定では慣れた手つきで、おでこを出してくれています。集会や食事で座る際には、隣同士で近づき過ぎないように離れて座る事にも慣れ、子どもなりに、社会の変化を感じているように思います。

登園・降園の際に、保育室前で保護者が密にならない為に。春からは建物前でのドライブスルー方式での対応を取らせていただいていましたが、保護者と落ち着いて話をする機会は減ってしまいました。社会全体での自粛緩和に合わせて、感染対策を行なながら、入り口まで保護者同伴で登園し、降園の際は、数人ずつに分けて保育室前や階段の踊り場など、分散しての対応ができるようになりました。家族通園等の行事も安心して行えるように、感染対策を講

## 児童施設より

じながら、子ども・保護者の支援を行っていきたい  
と思います。



おでこ、ピッ！

## 極楽坊保育園

### 交流再開

園長 辻村 泰聰

来年4月から始まる新しい幼保連携型認定こども園の名称が「極楽坊あすかこども園」に決まりました。隣接する奈良市立飛鳥幼稚園の再編に伴って、同園の子どもたちを受け入れる形でこども園へと移行することになります。移行に向けて、これまで交流保育ということで、互いの園の行事への参加や、給食体験などを数年かけて行ってきました。

今年は、その集大成として1年かけて合同保育を進めていく予定でしたが、このコロナ禍で交流そのものがすべてストップしてしまいました。しかし9月から、園庭での朝の活動を少人数グループごとに交流するという形で再開できるようにな

りました。過ごしやすい気候になり、子どもたちも楽しそうに園庭で体操をしたり、マラソンをしたりしています。残された時間は少なくなっていましたが、互いの園の子どもたちがスムーズに合流していくよう、交流をさらに深めていきたいと考えています。



飛鳥幼稚園の子どもたちと交流

## いこま乳児院

### 目は口ほどに、と言いますが

院長 辻村 万里子

世界中がコロナ禍に見舞われ想像もしていなかつた状況が今も続いています。日頃から乳児院では、病虚弱児を含む乳幼児をお預かりしている訳ですから、感染症対策には神経を尖らせていました。

しかし、今回はちょっと様子が違う。毎日の感染者数がメインニュースとなり、感染症対策も次々と発信されて、店頭からマスクや消毒薬が姿を消して、おまけに世の中は自粛自粛で時が止まったように静かでした。

夏が過ぎ、少し落ち着きを取り戻しているようですが、根本的解決策があるわけなく、到来する寒さとインフルエンザとの競合を前に恐れをなします。

何処へ行くにも、まずマスク必携。マスク姿が当たり前になりました。でも、乳児院の子どもたちのことを思うと私は、はたと大きな壁にぶち当たったような気持になりました。生まれたての赤ちゃんも三ヶ月もすると、母乳（ミルク）を飲みながら、じっとこちらを見つめてくれます。離乳

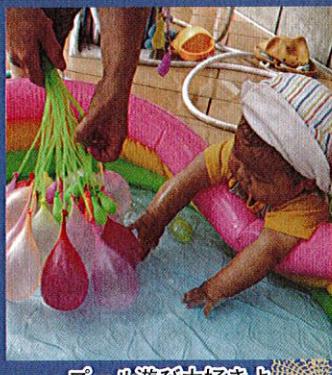
食が始まると、スプーンを持って大人の方が思いっきり大きな口を開けて、「あーん」と子どもの口に食べ物を運びます。子どもの満面の笑みに、大人もつられて笑顔がこぼれます。これが乳児院での普段のやり取りでした。

家庭ではコロナ禍といえど、マスクを外して生活しているでしょう。でも、乳児院では矢張り子どもたちの安心安全を守るために、マスクを付けて対応しています。（マスクの中では、懸命に百面相をしているのですが）子どもの成長の過程で、大人の表情を見ることが少ないという事が、どのような影響を与えるのか案じられます。

コロナとの共存生活が続く中で、どうすれば安全に子どもたちと素顔の触れ合いを楽しむことが出来るかが大きな課題です。



「あーん」とあけて 美味しいよ



プール遊び大好きよ

## 仔鹿園

## コロナ禍～仔鹿園での半年～

相談員 佐藤 知子

園門すぐの桜が満開でなんてきれいなんだろう！と思ったのは異動してきた4月のこと。

裏腹に世の中はコロナ禍…事態は深刻化しやがて緊急事態宣言を迎えます。世は自粛、自粛の中、障害児の通所支援は継続要請がでておりこの間も仔鹿園は開園し続けました。保護者の方々に家庭養育のご協力をいただいたり、ご家族を含め体調不良のある場合は利用を見合せさせていただしたり…そこには各先生方の保護者との細やかなやりとり、消毒や換気など感染予防対策があって、通常の療育の場を提供し続けることができたように思います。

中には感染への心配から自主的に利用を控えられるご家庭もありましたが、休み明けに登園した子ども達や保護者の方々の笑顔がとても印象的でした。

そんな中強く感じたことは、療育の通所事業所の担う役割の大きさと重さです。子の後ろにいる保護者の支援にも直結していると言えるからです。

行事も今年は縮小し、夏祭りは“夏祭りごっこ”と称し、それでも子ども達は、的当てに当て物、スーパー・ボールすくいに祭り食を楽しみました。地蔵盆では盛夏の昼下がり、みんなでお地蔵様の前に並ん

で、理事長さんの読経に合わせお参りをしました。

“園では常々…”、“毎年恒例の…”と“常”を知らない私は、いつもはどんな感じですか？と周囲の諸先輩方について尋ねてしまいます。それはアフターコロナでの楽しみとし、大切なことは、例年と違った形でも執り行うことができたことです。どうすれば安全で、そして子ども達が楽しめることができるか、職員皆が一生懸命考えた結果の形だから、この後続く秋の行事も大切にしていきたいと思います。

終わりに私が所属する相談支援センターでも、この間、ご家庭や事業所への訪問はなかなか通常通りは行えないことも多く、電話での対応、可能な状況であれば来園いただいた面談、といった方法で業務を行っています。

これからは??それは状況に合わせてこれから作っていくもの、と思います。

まずは体が資本！旬の物（松茸は無理だけど）をおいしくいただき、よく食べよく寝ましょう！



フィナーレは…アンパンマッシュ頭…盆踊り！

## こども支援センターあすなろ

## はじめての挑戦

保育士 横山 裕美

毎年8月に、外部の講師の先生をお招きし、「あすなろの集い」という保護者向けの講演会を開催しています。コロナ禍の中、今年度の「あすなろの集い」をどのような形式で開催するか色々検討した結果、当施設の相談支援専門員 中井加苗管理者に「わかりやすいコミュニケーションで前向き子育て」というテーマで講師のお願いをし、保護者に向けて動画配信をする事にしました。初めての挑戦で不安だらけでしたが、「視聴する保護者がわかりやすいように」を課題に、工夫しながら

撮影を開始。講演の内容に沿って、保育者が親役、こども役になり、家庭での様子をロールプレイで再現するシーンも取り入れ、あすなろらしい動画が完成しました。コロナウィルスの影響で大変な時ですが、新しい取り組みに挑戦できる良いきっかけとなりました。今後も保護者の皆さんに喜んで頂ける「あすなろの集い」を開催していきたいと思います。



## 愛染寮

### 海に行けなかった夏

副主任家庭支援専門相談員 菅尾 明史

愛染寮の夏休みと言えば、「臨海訓練」「海への里帰り」といった山に囲まれた寮の子どもたちが海にいける楽しいイベントが代名詞でした。

しかし今年の夏休みは新型コロナウイルスの影響により軒並み行事の中止や縮小といった残念な事態となりました。

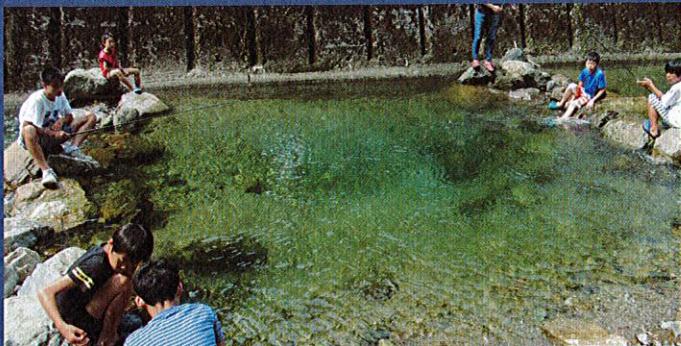
私自身、愛染寮に異動してきて約20年近くになりますが「海への里帰り」が中止になるのは初めての事です。

そんな中でも寮の職員としては何とか予防もしながら子どもたちに楽しい夏の思い出を作って欲しいと考え、各生活ホームで日帰りの外出を企画しました。また施設全体では愛染寮夏祭りを卒寮生やボランティアの方を呼ばず在籍児童と職員だけという形で実施しました。

小学生、中学生、高校生それぞれ新学期の開始

日もバラバラで非常にイレギュラーな夏休みとなりましたが無事に過ごすことが出来ました。

コロナ禍の中、先の見通しがつかない状況ですが、こんな時だからこそ大人と子どもたちで協力して乗り越えていきたいと思います。



ホームでお出かけ～中井渓谷へ



捕った鮎をその場でいただく！

## いこま乳児保育園

### 夏祭り

保育士 松田 めぐみ

先日、乳児保育園では夏祭りが開催された。

前年度までは、全クラスがホールに出て、感触遊びやお面作り、お化け屋敷等の保育士が考えた数種類のお楽しみコーナーを楽しんでいた。しかしコロナ禍の今、例年通りには行うことは出来ず、0・1歳児は各クラスで氷の感触遊びやおもちゃの金魚すくいを楽しみ、2歳児は1クラスずつホールに出て縮小バージョンの夏祭りを楽しんだ。今回2歳児には例年のメインとなるお化け屋敷は密を避けるために出来なかつたが、その代わりに普段上がることの出来ないホールの2階に子どもたちだけで上がって冒険するチャレンジコーナーを設けた。未知の世界へのドキドキとワクワクを胸に頑張る姿や、達成感でいっぱいの満足気な表情がとても印象的で、出来る範囲の中で夏祭りを開

催すことが出来て良かったと思えた瞬間だった。

今後もコロナウイルスはもちろん、様々な感染症に注意しながら保育しなければならない。これまで通りの生活に今すぐ戻ることは難しいが、子どもたちには出来るだけたくさんの楽しい経験をさせてあげたいと思う。



とれたよ～



夏祭り 楽しかったね

## いこまこども園

## コロナ禍の中の園活動

保育教諭 高谷 芙優 仲井 史佳

新型コロナウイルス感染予防のため、いこまこども園でもいろいろな対応を取りました。入園式や誕生会を乳児と幼児の二部制にしたり、秋まつりや祖父母参観などを中止にしたりしました。運動会でも観覧人数を制限し、年齢ごとに時間を決めて入れ替わり制をとりました。

例年、6月に行っている年長組での一大行事“お泊り保育”も今年は感染拡大防止のため宿泊を中止し、一日保育“おたのしみキャンプ”として7月に行いました。当日はあいにくの雨模様だったので一部予定の変更もありましたが、子どもたちが楽しめるように園舎内でのポイントラリーやTシャツ作り、夕食のカレーに入れる野菜の皮むきや野菜切りをしました。こ

まめに手洗い・うがいや消毒をしたり、なるべく向かい合わせにならないようにしたり、また夕食づくりの時には家庭からマスク・エプロン・三角巾を持ってきてもらったりとコロナ予防に努めながらも楽しめるような内容に工夫しました。おたのしみキャンプの最後を締めくくるホールでのキャンプファイヤーでたくさん歌ったり踊ったりした後には、幸いなことに雨が上がり、花火をすることが出来ました。友だちと協力しながらいろいろな体験をし、一日を終えた子どもたちの表情は、安心と自信に満ち溢っていました。

一方で、例年通り行った行事もあります。夏の強い日差しの中でのプール遊びはとても気持ちが良かったです。ばんび組（1歳児）は「今からプールに入れますよ。」と言葉を掛けてもらうとビーチバッグを片手に持って、うさぎルームのプールに向かい出発します。途中、事務所の先生に「バイバーイ」と手を振り、行って来るね！の挨拶をします。「さあ入るぞ！」と意欲たっぷり。そしてプールに入ると、コップで水をくったり、パシャパシャと水面を叩いたりして大喜びの子ども達です。少しぐらい顔にかかっても平気で歓声を上げていました。



プール遊びを楽しむばんび組の子ども達



夕食で自分たちが切った野菜入りのカレーを楽しむ子ども達



## 平城児童センター

センター 新型コロナ感染症対策  
のとりくみ！！

センター長 祖徳 おさむ

新型コロナウイルスの影響はありますが、感染を予防しながらサークル活動を行っていくための取組みを次のとおりとしました。

## ① 子どもを感染から守ること

センターに来る一人ひとりの子どもを感染から守るとともに子ども自身の感染症に対する知識を高める。

## ② 遊びを通した活動を継続すること

子どもたちとともに感染を避ける遊び方や過ごし方を工夫し、実施できることに一つひとつ取り組み、センターの役割をはたしていく。

## ③ 密集を避けるために開館時間の短縮や時間により対象者を設定する。

このような方針で内容は中止や大幅に変更することになりましたが、屋外での活動を中心に進めてきました。

野外自炊では、マスク・フェイスシールドを着用してカレー作りに取組みました。夏祭りは毎年サークル合同で実施していましたが、サークル別で行うことになりました。一人ひとりで行う「ヨーヨー釣り」「スーパーボールすくい」などに内容も変更しましたが、皆んな熱心に遊んでいました。保護者の方も「今年はどこの夏祭りもなかったあってよかった。」と言われていました。今後とも制約はありますが、内容を工夫しながら活動を進めていきたいと考えています。

## 発達障害者支援センターでいあー

### 支援センターでいあーの取り組み

相談員 平田 小百合

季節の変わり目、新型コロナウイルスのニュースがどこか遠くの出来事から、日常を脅かす存在に変わり、正しい情報を求めて右往左往していたのを思い出します。そんな時期からあっという間に半年が経ったことに驚きつつ、でいあーの取り組みを振り返りました。

でいあーでは、発達障害のあるご本人やご家族・支援者の方々への相談支援・就労支援・発達障害の啓発活動を行っています。障害特性や家族の関わり・生活・就労といった多岐にわたる相談内容はコロナ禍でも変わらず、寧ろ、外出が減少したことでの家庭内トラブルが増えたり、求人が減って就職が難

航したりと課題が大きくなるケースも一部見られました。

そこで、相談業務では安全を最優先に対策しつつ、相談者と繋がり続け孤立を防ぐことを大切にしています。来所相談は、面談室の机に衝立を立てたり、参加人数を絞っての当事者会開催、アルコール消毒の徹底など安心してご参加頂ける工夫を取り入れ、不安が高い方には電話相談への変更にも対応しています。

また、自立支援協議会、ペアレントセンター事業の運営委員会や交流会などでは、ZOOMの活用をはじめました。おかげでスタッフの在宅ワークも実現し、コロナ禍に合わせた多様なコミュニケーションツールの開拓やノウハウの蓄積が、働き方改革も後押ししてくれているように感じます。

今後も、研修の動画コンテンツ作成など慣れない取り組みが続きますが、ウィズコロナに対応する機関として成長していくよう、スタッフ一同奮闘中です！

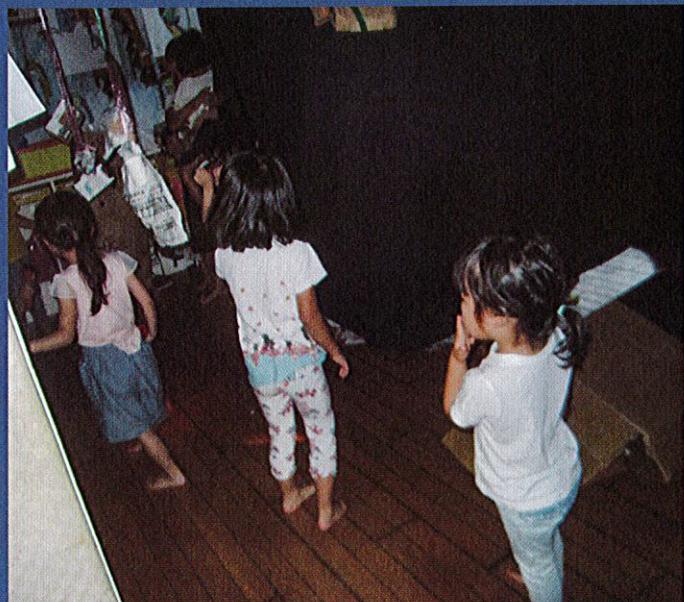
## あすかの保育園

### 楽しかったな！お化け屋敷

園長 小林 美香

今年度はコロナ渦の中、子ども達に「楽しかった経験」をどのように味わっていくか、職員で色々試行錯誤してきました。様々な行事が延期、中止になることもあり、子ども達からも「やりたかったな。行きたかったな。」という声もありました。特に年長さんは保育園で過ごす最後の年になるので、「思い出に残るような楽しい経験を友だちと一緒に」と思っていると、子ども達から『お化け屋敷』をしたいという声があり、早速お化けについて調べ始めました。「どうやって作る？材料は何がいい？」など話し合いながら作り、「チケットもいるな。どこに隠れようか？」など日に日に盛り上がりっていました。そして当日、招待されたクラスのお友達が、あおぐみのお化け屋敷に…ワクワク・ドキドキしながら入っていく姿はとっても可愛らしかったです。そして、次の日あかぐみでもお化け屋敷ごっこが始まりました。あかぐみなりに考えて、きぐみさんを招待。すると「あんな、

あかぐみさんのお化け屋敷やから、怖がってあげやんなあかんよな」というやさしい声もありました。そして次の週にはきぐみのお化け屋敷もできました。あおぐみから始まったお化け屋敷が、き・あかぐみも自分たちで考えて楽しむことができました。まさに「生きた経験」をお化け屋敷を通して味わうことができました。これからも子どもたちからの発信を大事にしながら、さらに楽しいことが経験できるように、今できることを大切にしていきたいと思います。



ちょっとこわいなあ～！

# 施設長就任挨拶

## 気持ちを新たに



梅寿荘「デイセンター」デイセンター憩の家  
センター長 伊 藤 智 宣

セントラル長 井 上 貴 至

デイセンター寿楽  
センター長 井 上 貴 至

## センター長就任のご挨拶

思い起こせば、法人に入職し、初めて高齢者施設で勤務をしたのが、この梅寿荘デイセンター・デイセンター憩の家でした。その施設に令和2年9月1日より、立場は違いますが約15年ぶりに勤務することになりました。今は、懐かしさと不安が入り乱れていますが、不安さを出さないようにしたいと思っています。

この15年間は、あくなみ苑で特養などの生活相談員、デイセンター寿楽では生活相談員やセンター長として勤務し、ご利用者へのケアだけでなく、ご家族への対応・自治体等の対応、大規模施設や住宅街にある施設・事業所の運営など、様々なことを経験させてもらいました。今、梅寿荘デイセンターやデイセンター憩の家で私に求められているのは、ご利用者により良いケアを提供することだけでなく、より良いケアを提供できる事業所にすること、歴代のセンター長が築き上げた事業所をさらに高め、さらに地域に根付いた事業所にしていくことだと思っています。これは、私の今までの経験や知識だけでは、不十分だと思います。理事長をはじめ法人内施設の仲間の知識や力を借り、そして一緒に勤務をする全職員一丸となり、着実に求められている施設に近づけていきたいと思っています。そして、気持ちを新たにし、ご利用者の生活を支えられる事業所にしていきたいと考えています。

梅寿荘デイセンターは、平成2年に開設し今年で30周年を迎えます。この記念となる年に異動し勤務でできることは、何か目に見えない糸でつながり、ご縁があるからだと思ひます。これからよろしくお願いいたします。

ご利用者、ご家族、地域から選ばれる施設を目指していきますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



# Two women's dream ~ふたりの物語~

末松 保喜

コロナ禍が少し一段落したかと思えた時期、それでも決して予断の許されない状況下でのパーティー開催でありましたが、どうせやるなら十分注意した上でめいっぱい楽しくやろう、そして喜んでいただこう！というスタンスで取り組みました。

本来であればお一人ずつお祝いして差し上げねばならないところ、異例の合同開催ではありました。お二人とも大好きだということで、パーティー 자체を夢の王国ディズニーランドに見立て、お二人はプリンセスと姫、（松久さんがドレス、中尾さんが和装でしたので。）お客様は夢の国のゲストという想定で進めました。ですから王子様ももちろん登場…極楽坊保育園は嵐ダンスの中で園長が王子様？愛染寮はお着物の姫と素敵な？王子様と仲間達との出会いというストーリーを、アトラクションとして楽しんでいただけたかと思います。また、お二人がいかにして保育士という夢の職業にたどり着き、歳月を重ねてこられたかも、どうぞ、お写真とプログラムからご想像くださいませ。

## オープニング

お二人入場

オープニングムービー及び受章者プロフィール紹介

## 理事長挨拶

祝辞

前園長 松村善子様

近畿児童養護施設協議会副会長 岡田悟様

## 花束・記念品贈呈

花束贈呈 仔鹿園：岡本とも子園長 辻村万里子総務部長

記念品贈呈 いこま乳児保育園：家治園長 あすなろ会代表 若林亜利沙様

## お二人から謝辞

祝宴

乾杯発声 安井宏一理事

ステージ1 極楽坊保育園「GUTS～ARASHI」メッセージビデオ、園長スピーチ

ステージ2 愛染寮 「プリンス&amp;プリンセス～素敵な仲間達と共に」メッセージビデオ 寮長スピーチ

閉会挨拶 法人企画部長徂徠おさむ

お二人退場





## 令和2年度 新採用職員 オンライン研修

令和2年度を迎え、はや半年が経過しました。前号でもお伝えした通り、今年度より法人職員として採用された職員（正規職員30名・契約職員15名）は、それぞれの事業所に配属され日々奮闘している事と思います。コロナウィルスの影響で3月末に実施された新採用研修は大幅に縮小されましたので、新採用職員に学んでほしい内容を、6月12日と9月1日の2回に分け追加研修として実施させて頂きました。世間では在宅ワークやweb会議なども一般的になってきており、会議や勉強会といった3密を要するものは方法を変えて実施することが求められていますので、今回の研修ではオンラインにて実施しました。

### 【第1回】接遇について

梅寿荘在宅介護支援センターの斎藤洋子センター長より講義がありました。法人職員として、組織の一員として責任を持つ事や私たち福祉職に必要なスキル（援助技術・ホスピタリティ・コミュニケーション）を習得する事。また、人に思いを伝える為には表情や声の大きさ、スピードなどを意識してどうしたら相手が喜んでくれるかを考える事。など私たちの仕事にはとても大事な内容でした。

### 【第2回】理解力・伝達力

愛染寮 臨床心理士の緒方 優子さんはからは個人ワークも交えた内容で講義がありました。「伝える」と「伝わる」の違いや「事実」と「自分の考え方」を区別する、そしてそれを理解する力が必要

である事。また、情報の収集力と共に力がチームワークを作っていくということでありました。

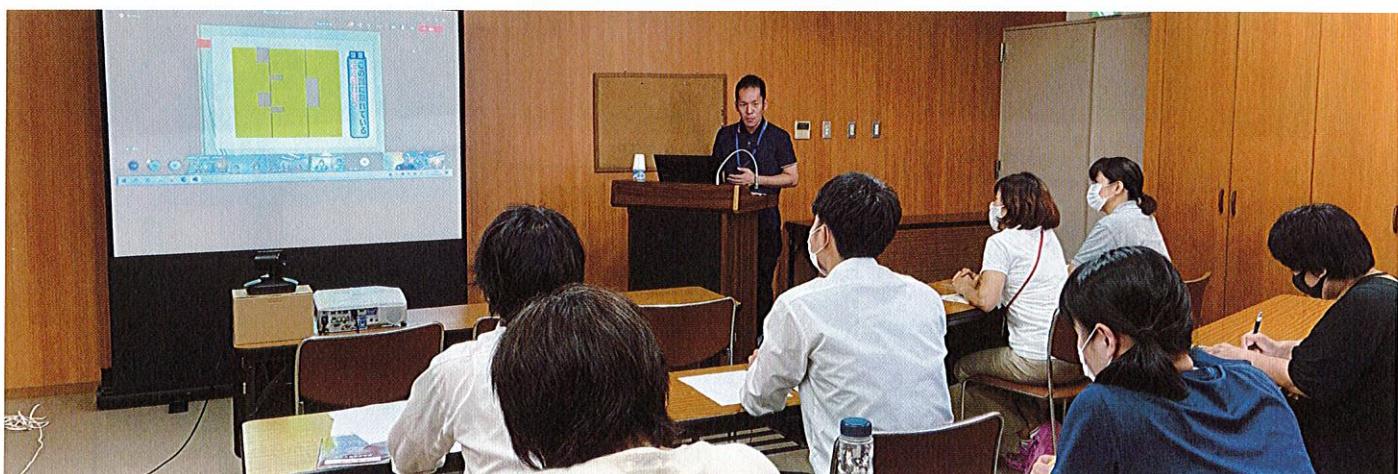
#### リスクマネジメントの理解

私が担当させて頂き、事故や危険を減らすには、ヒヤリハット（インシデント）に気づき対策を立てる事。ご利用者の危険を減らすため安易に制限や抑制はしてはいけない事。それらをチームとして取り組んでほしい、という内容でお話をさせて頂きました。

全ての内容に共通するのは、「相手の立場に寄り添って考える」という事です。この「思い」がより良い関わりに繋がり、その人らしい生活に近づいていくのだと思います。

オンラインでの研修は初の試みでしたが、参加した職員からは「思っていたよりも分かりやすかった。普段より聴く意識が強くなった。」との声がありました。研修の途中で音声が途切れたり、オンラインの操作に慣れずスマートに進行できなかつた反省点はありました。メモリットとして研修会場までの移動時間の削減、インターネット環境のあるところであれば、どこからでも参加できるといったメリットもあります。このような状況がいつまで続くかは分かりませんが、中止するのではなく別の方法を検討し実施することが大切だと思います。何はともあれ、新採用職員の皆さん研修お疲れ様でした。

特別養護老人ホーム  
法人研修委員 大平 達也



# 令和3年度 新規採用正規職員募集

令和3年4月1日採用の正規職員を募集しております。  
お近くのお知り合いの方にもお知らせください！

## 【児童部門】コース別採用を行っております。

|           |  |
|-----------|--|
| 募集職種      | ①保育コース：保育士、保育教諭<br>②児童養護コース：保育士、児童指導員<br>③発達支援コース：保育士  |
| 勤務先施設     | ①保育コース：いこまこども園、極楽坊保育園（R3年度より幼保連携型認定こども園「極楽坊あすかこども園」に移行予定）、いこま乳児保育園、あすかの保育園<br>②児童養護コース：愛染寮、いこま乳児院<br>③児童発達コース：仔鹿園、あすなろ・あすなろあずさ |
| 必要資格      | 保育士・幼稚園教諭（取得見込み可）<br>※児童養護・発達支援コースは社会福祉士・社会福祉主任用資格・各種教員免許も可。   |
| 選考方法      | オープン選考（筆記・実技・面接）または、体験実習+面接のいずれかを選択  |
| 採用説明会について | 日時：毎週水曜日開催<br>場所：いこまこども園・極楽坊保育園（開催日により異なります）<br>申込：参加ご希望の方は、事前にマイナビ・法人採用ページからお申し込みください。  |

## 【高齢者部門】

|           |   |
|-----------|---|
| 募集職種      | 介護職員  |
| 勤務先施設     | 梅寿荘・延寿・あくなみ苑・梅寿荘デイセンター・デイセンター寿楽   |
| 採用説明会について | 日時：第2・第4木曜日 13:30～14:30<br>場所：総合支援センターあずさ（生駒市西旭ヶ丘12-3）<br>申込：参加ご希望の方は、事前にお申し込みください。法人本部 0743-74-6644（担当：中井）また、マイナビ・法人採用ページからのエントリーも可能です。<br>選考については、説明会でご案内いたします。 |

詳しくは、採用特設サイトへ！

既卒者の方向け▶法人採用ページ 法人ホームページからリンク

新卒の方向け▶マイナビ 「マイナビ 宝山寺」で検索



令和2年度 法人役員会等報告(令和2年4月～9月)

**【第一回 理事会】 令和2年6月10日 (WEB会議)**

- 第1号議案 令和元年度事業並びに決算監査報告
- 第2号議案 令和元年度事業報告について承認を求める件
- 第3号議案 令和元年度決算報告について承認を求める件
- 第4号議案 新型コロナウイルス感染症の対応について承認を求める件
- 第5号議案 定款第18条4項の規定に基づき、理事長並びに業務執行理事の職務執行状況報告
- 第6号議案 評議員補充のための評議員選定等委員会の開催及び候補者の推薦について承認を求める件
- 第7号議案 延寿の空調設備改修工事について
- 第8号議案 定時評議員会を開催する件 6月24日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から文書報告とする。



**【第一回 評議員会】 令和2年6月25日 (文書報告)**

- 報告事項1 令和元年度事業について
- 報告事項2 令和元年度決算に関する計算書類等の報告について
- 報告事項3 令和元年度決算に基づく社会福祉充実残額等について
- 報告事項4 評議員の補充選任について

**【第二回 理事会】 令和2年8月25日 (文書決議)**

- 第1号議案 施設長の任命について（梅寿荘デイセンター、デイセンター憩の家、デイセンター寿楽）
- 第2号議案 総合施設やすらぎの杜延寿空調設備の更新について
- 第3号議案 梅寿荘空調設備の老朽化に伴う更新工事の施工について



**【監査法人彌榮会計社と理事長・監事とのコミュニケーション】**

令和2年9月8日 10時から約2時間 法人本部研修室  
令和2年度の会計監査人と当法人のガバナンス体制・内部管理体制に対する取り組み状況の相互理解を図る機会。

**第24回 宝山寺福祉事業団 研究発表会のお知らせ**

各施設の事業内容を高めるために、各施設現場の取り組みについて発表を行い、この機会に忌憚のない意見や要望をいただき、福祉サービスの向上を図っていきます

**「共に生きる力を育み充実させていくために」**

**とき** 令和3年1月24日(日) 12:50～16:20  
**ところ** 生駒市コミュニティセンター(生駒セイセイビル)

**【第1部】職員による発表 児童部門**

- 発表1 「双方向コミュニケーションの補充  
～ベビーサインを実践して～」…いこま乳児院
- 発表2 「園庭遊び、子どもたちの育ち」…いこま乳児保育園
- 発表3 「この町で暮らしたい、もう一度つながりを持つための支援～触法障害者における社会復帰の取り組み～」  
…奈良県発達障害者支援センターでいあー

**発表4 法人各施設のポスターセッションプレビュー(口頭発表)**  
…高齢者・児童部門各施設様々な取り組みをポスターにて発表

**【第2部】「クイズに挑戦！ 社会のルールを考えよう」**  
あひる隊(なら社会復帰支援隊)

**お問い合わせ先**

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団  
TEL 0743-74-1172 FAX 0743-74-1911  
〒630-0257 生駒市元町2丁目14番8号  
URL : <http://hozanji-wel.org/>

**あ・と・が・き**

桃李館周辺施設で毎月敷地内清掃を行っています。9月は秋の彼岸法要に向けてお墓へのアプローチの清掃をしました。始まる前に理事長より、滝寺プールを作るためにお墓が移転して来た事や法人所縁の方のお墓の説明を伺いました。近くで仕事をしていてもお参りする機会が少ない職員にとって良い機会になりました。

さいとう